

妙法院門跡



妙法院は、開山を伝教大師とし、古くは比叡山の山内寺院として山上にあった。平安後期、中興第一世と仰ぐ後白河法皇らにより寺基が確立し、代々法親王が法脈を継承した。また、大仏方広寺、蓮華王院(三十三間堂)を管領し、東山随一の巨刹として大いに栄えた。明治維新以後は、宗内の高德が法灯を継承、今なお、真俗に幅広く教化活動を行っている。

現存する建物は、国宝の庫裡をはじめ、重文の大玄関、大書院が目を引く。さらには、現在、飛地境内になる三十三間堂は、一千一鉢の千手観音をはじめ、風神・雷神・二十八部衆など千数十鉢にのぼる諸尊を奉安する日本唯一の千鉢観音堂としてあまりにも有名である。



妙法院門跡 三十三間堂

住所／京都市東山区妙法院前側町447 電話／075-561-0467 [通常非公開]

拝観時間／8:00~17:00(4/1~11/15) 9:00~16:00(11/16~3/31)

拝観料／大人600円 中高生400円 小人300円